

### 33 高気圧酸素療法が著効を示したPEG造設後の門脈ガス血症の一症例

橋本洋一 阿部昌子 栗林晃子

(苫小牧東病院)

今回、我々は脳梗塞後遺症による嚥下障害の患者にPEG（経皮内視鏡的胃瘻造設術）施行し、その直後、門脈ガス血症を呈し、高気圧酸素療法により著明な改善を認めた症例を経験したので報告する。

症例は82歳。男性。

主訴：嚥下障害・覚醒レベル低下

既往歴：68歳 両膝変形性関節症

70歳 高血圧指摘される。

75歳 左緑内障，右白内障の手術施行。

77歳 左大腿骨頸部骨折

平成16年2月25日，脳梗塞

現病歴：町立H病院より嚥下障害・覚醒レベル低下のためにPEG施行を依頼され平成17年5月13日当院に入院。抗血小板剤の服用のためにPEGの施行日を延期し，同年5月23日施行し，単純腹部Xpにて肝内に脈管様ガス貯留像を，腹部CTにて上腸間膜静脈本幹内腔にガスと門脈内ガス像を認め，門脈ガス血症と診断。高気圧酸素療法施行し，腹部CTにて上腸間膜静脈本幹内腔のガス消失と門脈内ガス像の減少を認めた。

門脈ガス血症は上部消化管検査に合併する極めて稀な合併症であるが，今回，高気圧酸素療法により著明な改善を認めたが，高気圧酸素施行例の報告が少なく，文献的考察が困難であったが，今後症例を重ねて，さらにその効果の根拠について考察を深めたい。

### 34 聾型突発性難聴(Scaled out)に対する高気圧酸素療法の意義

井上 治<sup>1)</sup> 新浜明彦<sup>2)</sup>

(1) 琉球大学医学部附属病院 高気圧治療部  
(2) 同 耳鼻咽喉科

【目的】突発性難聴(突難)は自然治癒傾向が大であるが，Scaled out(聾型)の予後は不良とされている。一方，高気圧酸素療法(HBO)はとくに聾型において早期に開始すれば小数例で難聴を改善し得るとの報告もある。

【症例】Mumps，音響外傷，再発進行性聾などを除外した過去16年間の突難514例から聾型109例(10～75歳，平均46。男54，女55)を対象とした。ほとんどの症例でsteroidが投与され，星状神経節blockやPGE1も併用された。低音から高音まで7音域の測定で，4音域以上が100db以上を全聾64例(10～72歳，平均47)とし，1～3音域が100db以上を部分聾45例(11～75歳，平均47)とした。HBOは2.0～2.8ATA=60分・週5回，全聾6～38回(平均20.2回)，部分聾5～37回(平均19.5回)施行した。HBO施行直後の平均聴力の改善が10dbに満たない場合を「不変」，10～30dbの改善を「やや改善」，30～50dbを「改善」，50db以上を「著明改善」，平均聴力が30dbに達した場合を「治癒」とした。

【結果】全聾では不変24例(37%)であったが，やや改善19例，改善15例，著明改善3例では平均35.4db±21.7SD改善した。部分聾では不変13例(28%)であったが，やや改善8例，改善14例，著明改善6例，治癒4例では平均40.9db±20.4SD改善した。発症1週間以内の51例では平均27.8db±25.6SD(不変15例(29%)，やや改善14例，改善14例，著明改善5例，治癒3例)，発症1～2週間の43例では平均19.6db±17.8SD(不変12例(27%)，やや改善12例，改善12例，著明改善3例，治癒4例)，発症2～3週間の9例では平均15.8db(不変5例(55%)，やや改善1例，改善2例，著明改善1例)，発症3週間以上の6例では平均2.1db(不変5例(83%)，やや改善1例)であった。HBO終了後2～6ヶ月の経過では42例で平均7.8db±12.0SDのみ改善したが30db以上の改善は1例であった。

【結論】聾型突難の1/3では聴力の改善は得られなかったが，HBOを行うことにより2/3で平均40db程度改善された。聴力が改善され得るのは発症後3週間までで，2カ月以上で聴力はほぼ固定された。